

## 1 調査の背景

- 物価高、施設の老朽化、水需要の減少等が経営を圧迫
- 固定的費用の割合が高く、経営改善には十分な検討が必要

## 2 調査目的

類似団体等との比較分析により現状について、経営・技術両面での課題抽出を行い、人口減少化においても持続可能な経営につなげるための経営改善策を探る。

## 3 課題抽出の結果

令和7年度 (株)NJS調査実施

新潟臨海・上越とも収支見通しは厳しく、健全経営に向けて多くの課題が抽出された。

- 維持管理費に改善の余地
- 類似団体と比較し、更新や耐震化が必要な管路の割合が大きい。

等

## 4 経営改善の方向性提案

- 官民連携（維持管理・管路更新）
  - 管理委託（4年契約・仕様発注）導入済みの上越と、直営管理の新潟臨海の両者について、長期の一体的な包括管理委託の導入及び委託範囲を見直すことによる経済性向上（スケールメリット）についての提案
  - 新潟臨海・上越とも、本管の更新には巨額な費用が必要であり、工費・工期の圧縮及び資金調達の観点から、民間のノウハウを活かした手法の検討についての提案
- DX活用（漏水調査、老朽度診断等）による業務効率化・コスト縮減
- 管路口径のダウンサイジング検討
- 料金の見直し、補助金・交付金の一層の活用

## 5 令和8年度の取組方針

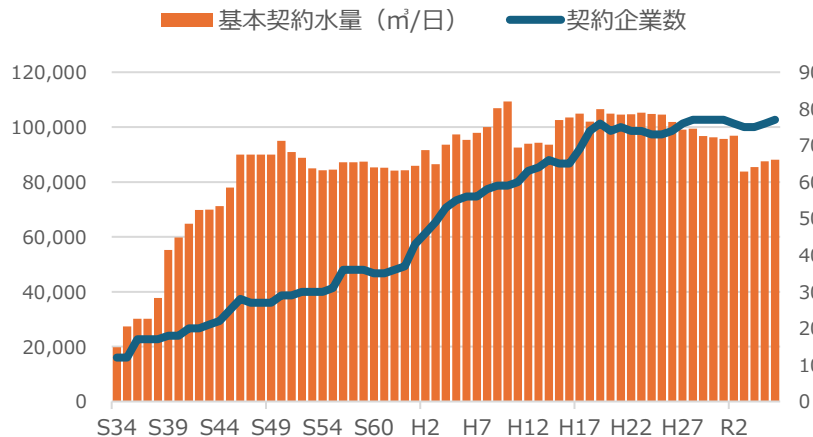
- 提案された改善策の実施について、有効性及び実現可能性の観点から検討
- サウンディング調査を実施し、その結果も踏まえた上で、今後の取組に反映

# 【参考】新潟臨海工業用水道及び上越工業用水道の現状

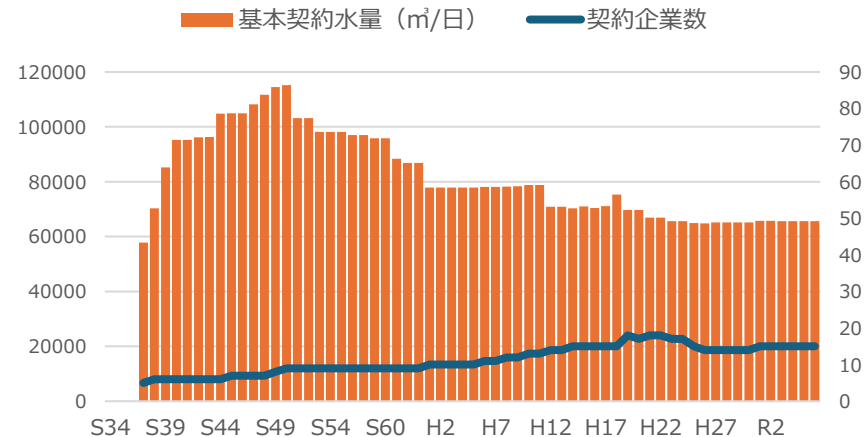
## 1 水需要の推移

新潟臨海・上越とも、契約水量がピークに比べ減少

【新潟臨海】

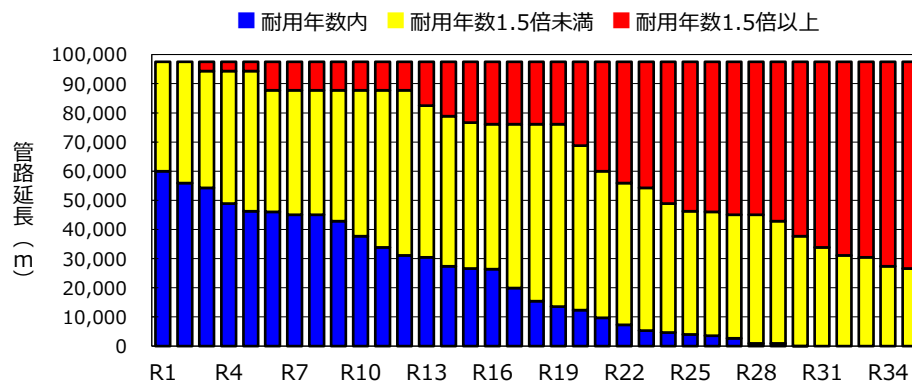


【上越利水】



## 2 管路老朽化の進行

新潟臨海・上越とも供給を開始してから50年以上が経過しており、今後は老朽化が懸念されることから、計画的に更新していく必要がある。

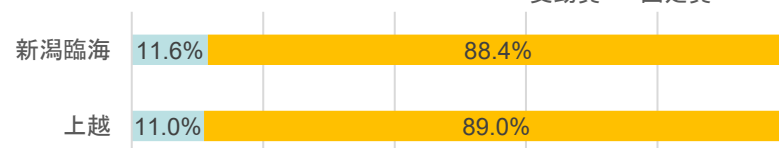


## 3 固定費の割合

費用(令和元年以降の平均で両工水合計15.6億円/年)に占める固定費割合が大きく、水需要が減少しても全体の経費が落ちにくい構造

- ・固定費(人件費・修繕費・減価償却費等)
- ・変動費(動力費・薬品費)

【変動費・固定費の割合 (R6)】 変動費 (青) 固定費 (黄)





## ■ 上越工業用水道

給水開始時期	昭和37年5月
給水能力 [m <sup>3</sup> /日]	130,000
基本使用水量 [m <sup>3</sup> /日]	65,626
給水工場数 [社]	15



平成20年4月より、工業用水道の運転管理業務と施設や設備の保守業務を外部委託化

浄水場（上越利水事務所内）